

小名浜港7号ふ頭第1号岸壁（-13m）及び荷役機械2基が供用再開

小名浜港の荷役能力が大幅に回復

小名浜港7号ふ頭第1号岸壁(7-1)は、水深13mで整備された大水深岸壁であり、石炭や鉱石などを輸送する大型船に対応した小名浜港の主力岸壁の一つです。

東日本大震災により、岸壁やレール式荷役機械は大きな被害を受け、使用できない状態が続いていましたが、この度応急復旧工事が完了し、**8月2日より供用再開となりました。**

小名浜港におけるレール式荷役機械を備えた岸壁の供用再開は、6号ふ頭第1号岸壁に続いて2バース目であり、**7-1バースの供用により、小名浜港の荷役能力が大幅に回復しました。**

なお、7-1バースの供用をもって、岸壁の「応急復旧」ステージは完了しました。現在までに、主要な公共岸壁34バースの内23バース（一部利用制限含む）、概ね7割のバースが利用できる状態になっています。今後、復旧工事は、いよいよ「本格復旧」のステージに入ります。



7-1バースに初の入港船

8月2日、非鉄金属鉱を積んだ外航船『ユニオン デデ(パナマ国籍)』が7-1バースに接岸し、翌日8月3日より復旧した荷役機械を使用した荷揚げ作業が行われます。

- ・船名:ユニオン デデ
- ・国籍:パナマ
- ・積地:カヤオ(ペルー)
- ・総トン数:31,540GT
- ・貨物:非鉄金属鉱



▲供用再開後、7-1バースに接岸した外航船

